

中玉トマト栽培ガイド

～ うららの森の事例 ～

作 成：令和元年 9月 1日

第2版

・・・・・・・・・・ 目 次 ・・・・・・・・・・

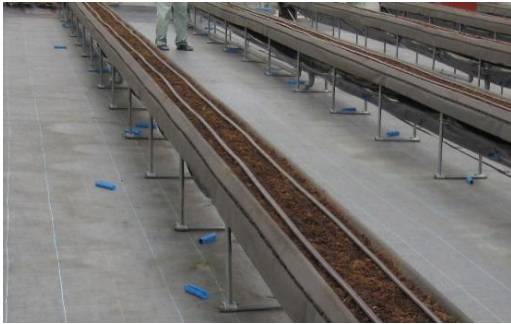
1. 定植準備	1 ページ
2. 定植作業	2 ページ
3. 芽かき作業	3 ページ
4. 誘引作業	3 ページ
5. トマトトーン散布作業	4 ページ
6. 摘果作業	4 ページ
7. 葉かき作業	5 ページ
8. 収穫作業	5 ページ
9. 防除作業	6 ページ
10. ラノーテープ設置作業	6 ページ
11. 葉面散布作業	6 ページ
12. 摘芯作業	7 ページ
13. 切り倒し、誘引具等撤去作業	7 ページ
14. 根切り作業	7 ページ
15. 養液の濃度設定	8 ページ

事前確認資材

資材名	商品名	確認事項
マルチ	チョー反射マルチ	受注生産のため早めに発注する
害虫防除発生予 察用捕虫テープ	B i g 金龍	在庫を確認し不足の場合は早期に手配
誘引具	トップフック、麻紐、 ローラーフック	不足の場合は早期に手配
誘引具留め具	クッキーズ	不足の場合は早期に手配
誘引補助具	かけ次郎、ビニールテープ、 イボ竹	不足の場合は早期に手配

1. 定植準備

(1) 培地の整理、ホースの設置



培地を天地替えし、塊を崩すことで培土を膨軟にし活着と生長を促す。

給液ホースについては、ストッパー側を引っ張り弛みをなくす。

幅が一定の間隔になるよう設置する。

※定植前に低濃度（E CO.4）で灌水し培地内にたまっている養液を排出する。
廃液濃度がE CO.4 位を目安とする。
あらかじめ培地内をぬらしておく

(2) チョー反射マルチ設置



チョー反射マルチを設置する。

マルチをパッカー留めするときに、左右交互に止めるようする。

たるみが出ると定植した時に苗の並びが悪くなるので注意する。

(3) 誘引具の設置



誘引具を設置

（誘引具の先にクッキーズを付けておくと定植と同時に誘引が可能）

(4) 害虫防除発生予察用捕虫テープ設置



「B i g 金龍」を栽培ベット上部に設置

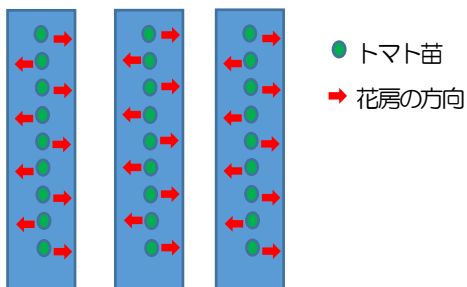
(5) 定植用の穴掘り、殺虫剤散布



定植するための穴を掘り、殺虫剤を土壌混和する。

定植用の穴を掘るときに出る培地についてはマルチ内の両株側にのけておく。

2. 定植作業



苗の選定

- ① 根本と中間の茎の太さが同じくらい
- ② 葉と葉の間の茎の長さが均等で葉の色が濃い
- ③ 花の枝が太く短く充実していて蕾がとがっている
- ④ 花の枝が2股に分かれていない
- ⑤ 花が1~2開花を始め、花弁は濃黄色
- ⑥ 根が若く活力がある

なるべく、生長（高さ）が同じような苗を並べる。

定植については、ポットから苗を抜き取り花房の向きを互い違いにする。

※定植後3~5日後の朝方に葉露が出ていれば活着したこととなる



○ローラーフックの場合

ローラーフックの紐と苗をクッキーズではさんで固定する。

○トップフックと麻紐の場合

麻紐と苗をクッキーズではさんで固定し、麻紐を苗の上部に向かって時計回りに絡める。

※あまり細かく絡めない。以降の誘引作業で麻紐が移動せず苦勞するため。

3. 芽かき作業



トマトの茎と葉の付け根付近から発生する新芽を摘み取る作業。

しっかり茎元から手で摘み取るようにすること。

※脇芽も生長点であるため2本仕立て等の際に利用する。

生長点付近の伸びが最も早い、下段からも発生は続くので注意

※あまり先端まで摘み取ろうとすると、誤って大事な生長する芽を摘み取ってしまう可能性があるため注意し、大きくなる前に手で摘む。

果房の先に生長点が発生する場合は栄養過多（花卉の若返り）

この作業を怠ると、栄養が不必要な部分へ転流し、脇芽が手で取りにくく、傷口が大きくなり病気が侵入してしまうため、早めの対応が必要。

4. 誘引作業 (ローラーフックの場合)



斜め誘因とする。

生長点が誘引ワイヤーより高くなったら、生長点の位置を下に移動させる作業。

○ローラーフックの場合

①トマトの茎をしっかり手で保持し、ローラーから誘引紐を出す。

②トマト茎と誘引紐をクリップを使って固定する。

③ローラーフックを左横に移動させ誘引紐をある程度張る。

（この時、生長点が床から1.5mくらいの位置にくるよう紐の長さを調整する）

(トップフックと麻紐の場合)



○トップフックと麻紐の場合

- ①トマト上部の茎と麻紐を併せて保持する。
- ②トマト茎を固定しているクッキーズを外す。
- ③①で保持したうち、麻紐の保持を緩め、トマトの茎を下の方に移動させる。
(この時、生長点が床から1.5mくらいの位置にくるよう調整する)
- ④位置が決まったら、クッキーズを使用して麻紐の下の方とトマトの茎を固定する。

※固定するとき葉の下側で固定

⑤茎の上部に向けて麻紐を巻き付ける。

⑥トップフックを移動させ麻紐を張る。

5. トマトトーン散布



散布する1花房で3～5花開花時に50～100倍希釈し散布する。

頂芽や幼葉にかかると障害を引き起こすため、軍手装着で花房を指で挟み拡散しないよう対処。

食紅を加えると散布、未散布の判別が容易2ℓにスプーン3、4杯程度

【希釈倍率】

- ・20℃以下 50倍
- ・20℃以上 100倍

※高温期の散布は朝の涼しい時間帯に行う

6. 摘果



着果過多による株への着果負担を軽減させ、果揃えをよくするため、不要な果実を摘み取る。

1果房に10～12果となるよう調整

この時に、奇形果等を摘み取るようにする
また、果房の先端付近に遅れて咲く花も摘花する。

※冬期間は草勢が落ちやすいので6～8果とする。

7. 葉かき作業



果房の3～5割の果実が着色した時点で果房下1枝を残して葉を取る。

葉の付け根を持ち、生長点側に向かって折り取る。

※根本側に向かって折り取ると、茎の表面皮を剥いてしまうので絶対しない。

※収穫が終わった果房より下の葉は全て取り除く。

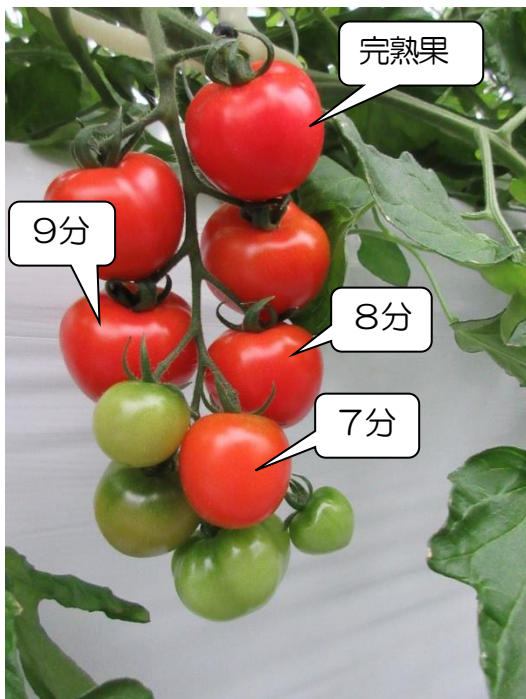
※例外として病気やハウス内環境を整える目的で枝に2～3葉を残して先端部分を切除する処理も随時判断しながら行う。

※1回の葉かきは2～3枚程度に抑える。

8. 収穫作業



時期ごとの発色状態を確認し、果実の上部にある節から折り取るようにする。



着色が進み、熟度は果実全体に赤色となった状態を完熟果とする。

下記の基準を目安として発色状態を見極め収穫する。

【収穫の発色割合】

1月～3月出荷	9分
4月、5月出荷	8分
6月～9月出荷	7分
10月～11月出荷	8分
12月出荷	9分

9. 防除作業



※暴露しないよう準備を整える

病害虫対策のための予防防除と、治療防除がある。

防除については、原則2週間に1回程度の頻度で行うのが望ましい。

薬剤については、害虫用の殺虫剤と病気用の殺菌剤を混用して使用。

【注意点】

- ・混用する薬剤については、県の「農作物病害虫雑草防除指針」等で確認
- ・同系統の薬剤の連続使用は耐性菌や抵抗性害虫出現のおそれがあるため避ける
- ・薬剤の使用方法（使用基準、適用作物、使用時期、使用量、希釈倍率、総使用回数）を守る

10. ラノーテープ設置



コナジラミ類への防除対策としてラノーテープ「非散布型製剤」を設置することで効果大

幼若ホルモンと同様の作用を示す

設置等については、注意事項を熟読する
※設置等で使用した手袋や資材等も回収するので取扱いに注意する

※設置期間中に使用する防除薬剤に注意
（石灰硫黄合剤、ボルドー液等アルカリ性農薬をテープへ直接散布しない）

11. 葉面散布



植物体内で移動しにくい要素は生長点付近に欠乏症がやすい

不足している要素を葉や開花花房に散布し吸収させることで補う方法。

- 1) カルシウム欠乏による生長点の枯れや尻腐果等の発生を防ぐために10日間隔で散布する。
- 2) 冬期間カリウム欠乏による葉先枯れが発生しカビの発生源とならないよう1週間間隔で散布する。

1 2. 摘芯



収穫終了予定日の30日～45日前を目途に、最終収穫目標果房の上2葉を残し、生長点側を折り取る。

1 3. 切り倒し、誘引具等撤去



地際の茎は、根切り作業を考慮して10～15cm残す。

剪定ハサミ等で使用し、処分しやすい長さ（50cm前後）に茎を切る。切り倒しが終わったら、誘引具や害虫防除用捕虫テープ等撤去する。

※チョー反射マルチについては、培地の乾燥を防止のため植替え直前まで撤去しない。

1 4. 根切り、株撤去



地際の茎を保持し、ハサミ等を使用して株の周囲の根を切る。

根を切った後、株についている土を落とし撤去する。

※根切り作業をするときは、灌水チューブやベットの下地を傷つけないよう注意する。

15. 養液の濃度設定例

定植時のEC濃度は0.4から開始し、一週間ごとに0.1ずつ濃度を上げ、1.2を維持している

トマトを観察しEC濃度調整をする。

